

# 世界のヒョウタン展

企画展

# 人類の原器



THE WORLD OF GOURD



2015年 9月15日 火 → 12月6日 日

国立科学博物館  
日本館1階 企画展示室

開館時間 ● 午前9時～午後5時（金曜日は午後8時まで）※ 入館は各閉館時刻の30分前まで  
休館日 ● 毎週月曜日 月曜日が祝日の場合は翌火曜日／ただし9月24日（木）、11月2日（月）は開館

入館料 ● 一般・大学生620円（団体310円） 高校生以下および65歳以上は無料  
主催 国立科学博物館、一般財団法人進化生物学研究所 後援 特定非営利活動法人全日本愛瓢会、朝日新聞社

国立科学博物館  
National Museum of Nature and Science

# 世界のヒョウタン展 —人類の原器—

ヒョウタンと聞いて思い浮かぶ、くびれのある丸い形。ひょうきんで、ユーモラスなイメージですが、その形の多様性は大きく、用途も実にさまざまです。ヒョウタンは最古の栽培植物のひとつであり、1万余年もの歴史があります。多くの地で土器に先立ち、人間が生きていくための生活用具として使われてきました。

ヒョウタンは丈夫で軽く、容器として非常に優れています。そのため人類は水を持ち運ぶことが可能となり、行動範囲が広がっていったとも考えられています。また、絵を描く、彫るなどの装飾を施すことができ、芸術表現の素材ともなってきました。

さらに、ヒョウタンは世界各国の神話や伝説に登場します。人々はヒョウタンの空洞性に異次元を見出すのかもしれませんが。

本展ではヒョウタンの多様性やその歴史、芸術、生活用品から祭器まで非常に多岐に渡る利用法などを、世界各国から収集された湯浅浩史博士のコレクションをもとに紹介します。あなたの知らないヒョウタンの奥深い世界に出会ってみませんか。

## 1 ヒョウタンの多様性

5cm以下のものから1mを超えるものまで、また、丸かったり、へちま形だったり、首が長かったり、その大きさや形は実にさまざまです。

## 2 ヒョウタンの歴史

世界各地で有史以前の遺跡からヒョウタンの種子や破片が見つかっています。本展では日本の縄文時代の遺跡から出土した種子などを紹介します。

## 3 さまざまな容器



## 4 特殊な利用

ヒョウタンは神話や伝説との結びつきも強いことから、祭器や儀式用具としても利用されてきました。物を入れる以外の利用について紹介します。



## 5 ヒョウタン芸術

ヒョウタンにはさまざまな加工が施されます。切る、彫る、透かす、描く、塗る、染める、焼く、いぶす、変形させる。芸術品となったヒョウタンを紹介します。



## 7 さまざまな生活用品

パイプ、茶器、石灰入れ、浮きなど変わった用具にも使われています。



## 6 装飾



## 8 楽器

楽器の原点でもあり、いろいろな民族楽器で使われています。太鼓やマラカス、弓琴、高度に発達した弦楽器などを紹介します。



## 9 おもちゃ



### イベント情報 講演会「世界のヒョウタン文化」

講師：一般財団法人進化生物学研究所理事長兼所長 湯浅浩史  
 開催日：平成27年11月7日（土）14:00～15:30  
 会場：日本館2階講堂  
 定員：100名  
 申し込み方法等詳細はホームページをご覧ください。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20  
 TELハローダイヤル：03-5777-8600

<http://www.kahaku.go.jp/>



〈交通ガイド〉

◆JR「上野駅」公園口から徒歩5分

◆東京メトロ 銀座線・日比谷線  
 「上野駅」から徒歩10分

◆京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分

※駐車場はありませんので、お車の来館はご遠慮ください。

ヒョウタン文化の  
 コーナーもぜひ遊んで  
 ください